

よなごびと

| 第43回 |

画家

あおい
青己 はなね さん



”
人の心に寄り添えるような
絵を描きたい

“

青己さんが絵を描き始めたのは8年前。きっかけは、スケジュール帳に予定を書くために買った青いボールペンでした。その書き心地の良さに、文字だけでは書き足りず、絵を描き始めた青己さん。「毎日描き続ける私に、夫が、せっかくだから他の人にも見せてもらおうと言ってってくれて」と、描き始めて3か月後には市内で初の個展を開催しました。

青己さんの絵の特徴は、青一色で描かれる緻密な線画。「他の色も試しましたが、青色が一番しっくりきました」とのこと。多く描かれる動物の絵は、実物や写真を見ながらではなく、全て想像で描くのだそう。「これはライオンですか?と聞かれると、ライオン風です、と答えるしかない」と目を輝かせます。

「青己さん。子どものころは絵を描くよりも、本を読んで想像を膨らませるのが好きだったと言います。」

青己さんが絵を描き続ける原動力は、絵を見てくれる人の心に寄り添いたいという思い。「絵を見る時間は、見る人が自身の心と対話できる時間」であり、「私の絵を見ることで、少しでも穏やかな気持ちになってもらえたら」と青己さんはほほ笑みます。海外でも個展を開催するなどグローバルな活動を広げる青己さんの拠点は米子。「生まれ育った米子を、もっと楽しいまちにしたい。海外で得たものは米子での活動に生かし、表現したい人が表現できる場を米子にもっと増やしたい」と目を輝かせます。



0.35ミリの青いボールペンで緻密な線画を描く



見る人の心に寄り添えるよう、動物の表情は大切にしている